

令和3年度第7回東播磨新地域ビジョン検討委員会

議事録

1 日 時 令和3年11月8日（月）13:30～15:30

2 場 所 加古川総合庁舎2階ABC会議室

3 参加者 17名（一般7名 行政10名）

4 内 容

事務局）それでは、定刻になりましたので、はじめさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまより、第7回東播磨新地域ビジョン検討委員会を開催いたします。はじめに、局長よりご挨拶させていただきます。

局長）こんにちは。委員長を始め、委員の皆様、ご多忙のなかご出席いただきありがとうございます。11月になりまして、おかげさまで、新型コロナの方は、小康状態ということですが、本当に助かっております。また、県の方では、新しい知事が就任いたしまして、8月から我々勤務に就いております。色々、それぞれ公約を意識しながらしております。直近では、超時間レクの廃止というものを、新知事、立てられております。我々、予算査定の前に、重要施策といたしまして、新年度の取組をレクする時間だったのですが、どうしても予算査定と重なることがありました。その重要施策レクがなくなり、新たな取組をするという状況になりました。

その中で、天気も非常に良く、週末のイベントが目白押しになりまして、今週末も加古川の楽市が本当に大盛況でした。高砂市も新庁舎、あるいは工樂松右門旧宅の住宅前の北前船寄港地から、坂越（赤穂市）のほうへ行かれて、74の方が参加され、大盛況で、来年以降も期待できます。私は、明石市の慰霊祭、これは春からの延期で秋に開催されました、そちらに参加させていただきました。

今週末もいなみ野学園祭が予定され、加古川市では、河川敷でシクロクロスが開催が予定されており、前日には、ビジョン委員のママチャリレースが開催予定され、本当に助かっておるところでございます。地域の取組・活力に感謝し、うれしく思っているところでございます。

例えば新ビジョンにつきましても、おかげさまで全体像がまとまりつつあり、ほっとしておるところでございます。本日はパブコメに入る前ということで、忌憚のないご意見を頂戴したく思っております。限られた時間で制限もございませうが、どうぞよろしく願いたします。

事務局) ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長) そうでしたら、私の方で議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。先ほど局長からもお話がありました、パブリックコメントの原案を取り決めたく、ほぼ完成に近いものを皆さまにご検討いただくことになろうかと思っております。修正点は前回から少し増えまして、そのあたりしっかり見ていただいて、忌憚のないご意見を賜りたく思います。それでは修正箇所について、本日の確認事項となりますので、事務局より、まず資料のご説明をよろしくお願いいたします。

事務局) それでは、お手元の資料 本体案につきましては、前回からの修正箇所のご説明をさせていただきます。

「第2章 時代の潮流・背景」の「自然の脅威」

資源について「・・・その管理が十分でなければ、災害にも直結します。」

P4「3 テクノロジーの進化」では、水素、電気の活用ところで意味が少しわかりにくいというご意見がありましたので「・・・例えば、水素エネルギーの利用や電気自動車の充電設備等の普及などを通して」と説明を加筆しております。

次に、P5の4つめのタイトルについては、「世界の成長と一体化を→変化への対応」に修正し、内容については成長の期待と共に「資源の枯渇と争奪戦が激しくなることの懸念」について加筆しております。

「6 価値観と行動の変化」については、SDGsについて、朱書きのとおり修正しております。

次に「第3章 東播磨地域の特性」では、「1 東播磨地域の人の動き」で、「全県と比較すると（人口の）減少のペースはやや抑えられています。」と修正し、世帯構成員について、1世帯あたりの人員について加筆し、P9に図8として世帯数・世帯構成員数の推移のデータを入れております。

「3 地域資源・歴史遺産」については、地域資源について記述が少なかったため朱書き部分を加筆しております。

第4章「東播磨地域の課題」「生活（くらし）を取り巻く課題」では、「地域のコミュニティ意識の希薄化が進み、平常時の防災意識の醸成や災害時の地域住民の安全確保に十分な機能を果たせない可能性がある」と加筆しております。

「生き方・働き方・学び方を取り巻く課題」、「少子化の背景と子育て環境の不安」については、「結婚や出産に対する価値観が多様化し、未婚、晩婚を選

択する人が増えていること、また子どもを産まない選択をする人の増加も影響をしている」と修正し、「経済的理由から第二子以降の出産を控えるといった、事情も存在する。」を加筆しております。

未来を切り拓く人材の育成、1行目の「ICTによる技術革新の進展による高度情報化社会に対応するため、(ICTやビッグデータ、AI等の新技術を活用した教育環境の整備が必要である)」の説明データとして、図16「東播磨地域における情報処理技術者数(推計値)」を提示しており、2030年度では、3,300から3,500人の人材が必要と考えられることが示されています。

「生き方・働き方・学び方の変化」について、はじめに「働くことの意義を再認識することが肝要」を加筆し、「女性は40歳以上で非正規職に就く割合が高い傾向である」と修正しております。

「地域を取り巻く課題」では、「コミュニティ機能の低下」では、3番目の「オンラインの便利さを感じる一方、人と人とのオフラインでの交流の意義が改めて認識される傾向も見られる」と修正し、最後に、先ほどの世帯構成員の減少に関連して「世帯分離により世帯数は増加傾向であったが、現在では世帯数も減少し始め、今後、コミュニティの維持が難しい」という課題を最後に加筆しております。

「地域の担い手の減少」では、「歴史ある神社が多く、祭りが盛んなことも東播磨地域の特徴。・・・地域の人々に愛されている秋祭りは欠かせないものであるが、少子高齢化に伴い、神輿の担ぎ手の減少に象徴されるよう継続が懸念される」と修正しております。

「人口の転出入」では、コロナ渦をきっかけにした移住について、兵庫県での傾向と、東播磨地域としては「・・・新たな魅力を打ち出す工夫が必要である」と修正しております。

下から2つめ、大学進学等で、「都会に出て行った若者」を「大都市に出た若者」と修正しております。

「産業・経済を取り巻く課題」の「産業構造の変化に対応できる人材の不足」では「スマートシティ構想など、ICTに力を入れているが市民社会での活用は十分に進んでいない。」と修正、「誰もが情報を発信できる一方でフェイクニュースが出回るなど、新たな課題が生じている」と修正しております。

つぎの、タイトル「起業があまり盛んでない地域」は前回「少ない起業」としていたところを修正し、内容については、図24、25、26のデータを元に、「東播磨県民局管内の平均新設事業所数(年間)」については、「兵庫県全体の件数に占める、東播磨の比率は10%前後で、大きな変化」はなく、「平均新設事業所率」については、平均新設事業所数の推移と同様、2012年までは低下を続け、その後回復するが、横ばいの傾向、「平均新設/廃業事業所率」は、「東播

磨では、2014年、2019年を除くと100%を下回り、廃業が新設を上回っている。「東播磨地域では、これまでは安定的に新設事業所の立地があり、ここに一定数の起業も含まれていると思われるが、2019年ではその割合が低下し、他の県民局を下回っている。ICTなど新しい技術や新規サービス業等のイノベーションを伴う起業にはやや見劣りすること」を示しています。

空き家問題などでは、「独居高齢者が、施設に入ってそのまま亡くなられ、空き家になるケースがここ数年で目立つようになった。30年後は空き家が大半を占めるくらいのイメージがある。」と修正しております。

タイトル「組織の硬直化」は前回「変わらない組織」としていたところを修正し、「デジタル化が進む中で企業や自治体、自治会活動など」を加筆し、「社会の多様化が進む中で、県民と行政、県民と県民の関係も見直しが行われ、参画と協働の新たな位置づけが必要となっている」と加筆修正しております。

つぎに、「自然・環境を取り巻く課題」の「地球規模の環境問題」では温暖化の影響として前回、「農作物被害」としておりましたが「農林水産業への被害の発生などに」と修正しております。

「第5章 基本理念」では、最後の行、「ものづくりのまち東播磨で、まちや歴史、文化、自然、産業」としてまちと文化を加筆しております。次のページでも同様に「まち」、「文化」を加筆しております。

「第7章 将来像を実現するための方向性」では、説明文の中で2010年に設定された東播磨地域ビジョンで達成された成果を振り返り、そこで残された課題を解決したり、成果を共有したりすることにより、実現可能な方向性を示すことができる、と考えました。と加筆修正し、追加の説明で、「以下、方向性ごとに示します。とし、方向性ごとに「若者アンケート」や、ビジョン委員の方々からいただいた意見などをヒントとして、新しいビジョン実現のための取組のイメージが膨らむように記載しております。

「方向性3. 伝統と文化が息づき、交流が広がる」の説明では、「暮らしの中に息づく祭りなどの伝統文化、豊かな歴史を守り、上手に引き継ぐことで」と追加しております。

つぎにP30以降の「第8章 主な取組」では、前回、ご提案をいただきました各方向性の中での記述の順番を、少し夢のあるものを前に出すようにして、並び替えをしております。

内容についての加筆、修正は、「方向性1 軽やかに動き、いきいきと暮らす」の「快適で便利な移動手段の確保」に防災にも活用できる道路ということで「延焼防止など防災にも配慮されている道路の整備」を加筆しております。

スポーツを通していきいきと過ごす「健康志向の高まりに応じて生涯にわたってスポーツに親しむ人を増やす」と修正しております。

「方向性2 ひとを育み、生きがいを実感できる」の「広がる生き方・働き方・学び方の選択肢」では、参考事例に「ものづくりを通じた働くことの価値を実感できる社会づくり」を加筆しております。

「チャレンジする若者を育む教育」では、枠内の説明文、「特色ある教育の展開を通して、若者が自立して未来に挑戦する力が育まれ、その挑戦によって地域も発展する」に修正し、参考事例についても、末尾などを朱書きの通り、「世界に目を向け、グローバルな課題の解決に活躍することのできる人材を育てる教育の充実」、「学校教育と社会教育において特色ある体験型・課題解決型教育や多様な学びを導入し、ふるさとを大切にす意識（シビックプライド）を醸成し、生きる力がみなぎる」、「市民性を養う観点から行われる教育（市民性教育）の充実により、自分たちの地域のことは、自分たちで決めるという意欲が沸く」という表現に修正しております。

「地域に根ざした観光資源の活用」では、「（参考事例）自然が豊かで歴史的資源も多く、ご当地のB級グルメも地域内外に浸透するなど地域の魅力を生かした、観光プロモーションなどの発信力を高める」と修正しております。

最後の章、「第9章 ビジョン実現のために」では、朱書き部分を加筆しており、このビジョンは、今後、時代の変化や取り組む人々の関わりの変化の中で不断の見直しが必要であり、多くの人々の手により、磨きをかけ、完成させていくものであるということを伝える形にしております。

以上が本体案についてのご説明です。参考資料①の資料編では、資料1に「検証と評価」、資料2「若者アンケート調査結果（概要）」、資料3では、策定までの検討に関係した会議など、資料4に検討委員名簿、資料5は、用語解説となっております。

参考資料②今後のスケジュールについてですが、11月20日（土）に令和3年度の未来フォーラムを開催予定にしておりますが、今回は規模を縮小し、東播磨地域でご活躍されている方9名をお呼びして、兵庫県県参事、局長を交えた「東播磨地域の未来について」をテーマに意見交換会を開催予定としております。

検討委員会からは、委員長、ビジョン委員会からは委員長にご出席いただきます。開催結果につきましては、また書面・議事概要などをご報告させていただきます。

そして、12月の「パブリックコメント」実施につきましては、全県ビジョンのスケジュールと合わせての実施となり、予定しておりました12月中旬より少し遅くなる見込みです。委員のみなさまに、本日の議論の結果などを反映させ、修正したものを事前に書面でご確認いただき、パブリックコメント発表資料として提出する予定としております。

パブリックコメント実施終了後、最終案協議のための検討委員会は2月中に開催予定としております。

資料のご説明は以上です。

それでは、ここからの議事進行は委員長にお願いいたします。委員長よろしく申し上げます。

委員長) ありがとうございます。赤字修正について事務局よりご説明賜りました。時間が限られていますので、まずは、第1章、第2章からみていこうと思います。第1章2章をまず見ていただいてご意見、ご質問があれば、あるいは修正点、こういったことは修正すべきではないかとか、あるいはここは書き方がわかりにくいのではないかとか、もう少しわかりやすくしたらどうかとか、その他いろいろご意見あろうかと思っておりますので、その辺りも含めてご意見賜ればと思います。いかがでございましょうか。赤字修正部分以外でも結構ですのでよろしくお願いいたします。

特に社会情勢、将来見込みのところで、これは県の方が作っている将来見込みといえますか、あのあたりとの整合性は問題なく取れているということでしょうか。よろしいですね。

委員) 表現の問題として「温暖化対策」でいいか「温暖化防止対策」とした方がいいか。ミティゲーション対策が入っているなら「温暖化対策」でもいいのかな、とは思いますが。

委員長) 県の方の用語と統一だけお願いできますか。「温暖化」なのか「気候変動」なのか、「温暖化防止」なのか、先ほど言った緩和を含めた「温暖化」だけでいいのか。そのあたり用語の統一性というものがあると思うので、県の方のビジョン課との調整でお願いします。

ほか何かお気づきのところありませんでしょうか。

P6下から2行目のところは、いかがですか。

委員) 地域から日本の未来をともに考え、はいかがでしょう。

委員長) ありがとうございます。その他お気づきの点など何かないでしょうか。私が少し気になっているのは、自然の脅威のところ、この地域のデータがない。何かないものではないでしょうか。世界と日本と、全国ですね。この地域が穏やかな地域だというのが皆さんの印象なので、そういったものはないでしょうか。委員、いかがですか。

委員) 国土交通省姫路河川国道事務所調査課にお尋ねください。

委員長) この地域のデータがないのはいかがかなと少し思いますので、少なくとも県のデータはと思いますので、考えていただけますか。ほか何か、よろしいですか。なければ第3章のところを見ていただいて、今度は、今の特徴になって参ります。先ほどのお話にも関わるのですが、例えば P19 の起業家に関するところ、これも全国データしかなかったので、東播磨のデータをいじってみたのですが、ひどく抑制されているわけではなく、それなりにあるということで、阪神間、神戸に次ぐぐらいの規模ではあることにはあるので、ただ最近少し伸びが鈍化しているのでそこは少し課題かなと。要するに製造業の時代は新たなのれんわけのような形で業者が増えていったものが、だんだんそういったものが減ってきている。あるいはここは比較的支店経済的なイメージもあるので神戸にでた企業が東播磨に起業。それも減ってきてしまうと鈍化するのかなと、そういう印象はあるのですけれど。なかなか表現は難しかったのですが、ほか何かご意見ご質問ないでしょうか。

委員) P14 少子化のところですが、「生き方・働き方・学び方を取り巻く課題」のところ、子どもを産まない選択もあれば、つぎに、第二子以降の出産を控えるというところもあります。未婚、晩婚を選択する人が増えていること、よいのではないのでしょうか。子どもを産みたくても子どもに恵まれないという悩みを抱えてらっしゃる方もいらっしゃるの、「産まない選択」という言葉はその方達にとっては厳しい言葉だと思います。

委員) 別のところでもよろしいでしょうか。

委員長) まとめて意見を聞きますので、どうぞ。

委員) 3点あります。図6の転入・転出の図ですが、0を起点にプラス・マイナスに分ける図示が一般的です。いまはプラスの方向に2本の棒を並べる図ですが、どちらがわかりやすいか試してみてください。2点目としてP21の「大半を占めるぐらいのイメージがある」という文言に違和感があります。具体的な予測データはありますか？イメージでものを言わないほうがいいので、書き換え案として「もっと増える」程度にしたらいかがでしょう。それからP22・23「農業の持続化」のところですが、漁業・水産業は触れなくていいのでしょうか。その次の「水辺」の項目に盛り込まれてはいますが、産業として言及するのが「農

業」だけでいいのか、という指摘です。

委員長) まずは委員のおっしゃっていただいたところですが、元の文章はいかがでしょうか。

事務局) 元の文は、「『晩婚化の進展と子育て環境の不安』・結婚に対する価値観が多様化し、晩婚化が進展している・就業の都合などで出産時期を遅らせるなど晩産化も進んでいる。」です。

委員長) 元の文章はわかりにくかったので、説明を増やしていただきましたが、委員がおっしゃるように選択をするというところに対して、やむを得ないケースもあるだろうと。やむを得ないケースの一つは赤字で書いてある、経済的理由から第二子以降の出産を控えるということ、これは実際にそういう結果もあったのでそれを使っているのですが。おっしゃったように、いわゆる不妊の方への選択という言葉、やむを得ずという方に対しての配慮がどうなのかというところで、そのあたりはいかがでしょうか。

一つは価値観の多様化で様々なライフステージを選択される方が増えているのは事実でしょう。その一環として昔の言葉でいうディンクスを選ばれる方というのも当然増えてくるでしょう。逆のケースもあって、結婚せず子供を産む人もいるので、様々な選択があるでしょう。一方で、選択の余地がない、子どもが産めない、産まれにくい方もいらっしゃるし、ここにあるように経済的な問題のある方もいらっしゃる。細かく書くかどうか、価値観の多様化だけではちょっと説明がつかないような気もする。何かいくつかいるのかなということなのですが。

そうしましたら、価値観の多様化というところだけ書かせていただいて「子どもを産まない選択をする人の増加」を外させていただいて、「・・・価値観が多様化し、未婚、晩婚を選択する人が増えていること」くらいにしておきましょうか。で、経済的理由は国の方でも大きな理由だと言われているので、ここは少し書かせていただきたいと思っています。国の場合は、経済的理由で結婚を控える、日本の場合は結婚した方から出生というのが圧倒的に多いので、数値的にいうと、第2子以降だけではないのですが、アンケートなどでは、希望出生者数は2.4、実際は1.8となっているのですが。書き方は少し考えさせていただいて、経済的理由をやむを得ない理由の一つとして書かせていただこうと思います。いかがでしょうか。委員、よろしかったでしょうか。

委員) はい。

委員) 子どもを産まない選択をはずすのであれば、経済的理由のところは、もう「第二子以降」ではなく、「経済的理由などから」とした方がいいのでは。

委員長) わかりました。そういう形で入れさせていただきます。

あと、図の表現は、どっちがいいか検討させていただいて。

それから、「空き家問題」のところは、元の文章がもっとわかりにくかった。「空き家だらけになる」と書いてあったので、それで少し、中間的な表現にしたのですが。「30年後は空き家が増加する」にしましょうか。

委員) 「イメージ」という文言は必要ですか？

委員長) イメージはいらないですね。

副局長) 元の文章は「空き家でいっぱいになる」ですね。

委員) 30何%になるという試算がありますが。

委員長) 実際のところは15%で収まる、恐らく、ここに書かれているのは一部目立つ大きな家が空き家になることがあるので、ただ目立つということがあります。これは調査でのご意見でしたかね。「30年後には空き家が増える懸念がある」くらいでいかがでしょうか。

そうしましたら、P23の農業の持続化で、漁業の持続化はいらないのかということですが、どうでしょうか。

委員) 水辺は最後に項目はありますが。

委員長) このあたり、明石市さんとか高砂市さんとか播磨町さんではいかがでしょう。播磨町さんは漁港もあるので。

委員長) 播磨町さんどうぞ。

播磨町) 農業の持続化のところに書いてある「廃業」ですとか、「担い手不足」については、もちろんうちの漁業についても全く同じようなところにはきておりますので、入れていただいても違和感はないかなと思います。

委員長) 例えば、漁業についての持続可能な開発などはやっておられますか？

SDGs では海の豊かさを守ろうといったことがあるので、当然そういった議論はあるのかなと思います。

播磨町) 漁協さんたちと新しいものを作ろうとしてはおりますが、なかなか劇的に増えてはいかないです。課題としてはある。

委員長) 課題に関してはあるけども、解決してはいないということですね。

播磨町) そうですね。

委員長) 高砂市さんどうですか。

高砂市) 水産業について、確かに担い手不足はあると思いますが、農業のように休耕田のような形で目に見えてというようには私の方では把握はしておりません。

委員長) 加古川市さんはどうですか。

加古川市) 加古川市はのりの加工がありますので、それなりに漁協さんは頑張っているし、別に反対はなく、水産業に関しては入れていただいた方がいいのかなと感じはしております。

委員長) 「農業と水産業の持続化」にして、一番下にある「排水規制の強化、農地の減少、下水道の普及等による土砂の排出量の減少などにより海に流れ込む栄養は年々減少」の部分と、最近で言うと「ため池のかいぼりが地域で行われなくなっていることによるリンの流出減少がある」を、そのあたりを上の方にもってきてもらって、「農業及び水産業の持続化」と入れていただいたらどうでしょうか。

その他どうでしょうか。

稲美町) P14 に戻ってしまうのですが、「子どもが遊べるような公園も少なくなっている」とありますが、これはみなさんに一度お聞きしたいのですが、公園というのは私の感覚では最近増えているように思うのですがいかがでしょうか。

委員長) どうでしょうか。感覚でも結構ですし、たぶん公園面積の話と遊べる公園とは違うと思うのですが。

加古川市) 公園は増えています。と言うのは、開発されると必ず開発の方からの指導で公園は作ってくださいという形になって、公園自体は増えています。が、やはりそれを管理していただく人が、町内会にお願いしたりしているのですが、管理とか草刈とかそういうところに手が回らなくなって、うちの近所でもあるのですが、遊具はあるが草がぼうぼうになって、だれも遊んでいないという状況なので、この書きぶりは、間違ってもあって正しくもある、そんな形になっていると思います。

委員長) 高砂市さんどうでしょうか。

高砂市) 皆さんのおっしゃるように、公園の数自体は増えているとは思いますが、ただ活用方法ですね。我々が小さい頃ですと、球技と言いますか野球とか、そういったものが公園ではできていましたが、今の公園は面積的にはやっぱり大きいのがあまりありませんので、玉遊びとかをしないでくださいと注意書きがしてあったりしております。公園の数というよりは、活用の仕方ですね、活用方法は減ったのかなと感じます。

委員長) そこを少しわかりやすく書かしていただいて、稲美町さんのおっしゃったとおり、公園の数が少なくなったのではなくて、遊べる公園が少なくなっていることで、ここはしっかり表現がわかるようにしていただいて、先ほどおっしゃっていただいた「管理上の問題とか、いわゆる、使用の制限がかかったりして、子どもが遊べるような公園が少なくなった」という書き方で。誤解がないようにということ。ほか何かご意見ご質問ありませんでしょうか。

とくによろしいですか。であれば次の章にいかせていただきます。

第4章、第5章を見ていただいて、ここが一番重要なところなので。第5章などはしっかり見ていただいたところだと思いますので、あまり大きな変更はないかと思いますが。あと、第6章ですね。見ていただいて。いかがでしょうか。これはかなり見ていただいたところではあるのですが、まちを入れるとか、歴史、文化という形で、少しここら辺の特徴を明らかにしようというところですね。なかなか文章量をなるべく等しくしようと言いましたが、「水辺」が「ものづくり」より少なくなっていますが、そこは少しご勘弁いただきたいところではあるのですが、第5章、第6章のところはよろしいでしょうか。ここは、しっかりと議論していただいて落とし込んでいるところなので、大きな修正はないかと思うのですが、文言などでこれはちょっと誤解を生むというようなところなどはないでしょうか。

委員)水辺のところですね。P25では「県下最大規模の加古大池をはじめとする」と書かれているのですが、P10では「日本一のため池群」とあって、県の一番なのか日本一なのか統一をぜひともお願いしたいと思います。

委員長)わかりました。書き方ですね。加古大池は県下最大であるのは間違いではないのであって、ため池群については日本一であると、こういう表現なのですが、このあたり統一した方がいいか、どうかですが。いろいろ書き方はありますが。ここは事務局にご判断いただこうと思います。よろしいでしょうか。こういう文言の調整を受けて。なければ、次へ行かせていただいて、第7章ですね。

ここは、ヒントのところでもいろいろ議論をいただいて、ヒントのところに入れさせていただいて、前に申し上げたアンケート等からとってきたものでございます。これにつきまして何かご意見ありましたら。

委員)言葉の印象の問題なのですが、ヒントっていうと何か、正解に導く鍵みたいなそういうイメージが私自身はして。これは若者アンケートからでてきたアイデアですよ。この中身はすごく面白くていいと思うのですが、ヒントという言葉が適切なのかなというのはちょっと、印象ですけどありましたので。そうですね、「若者の視点」とか、「若者のアイデア」とか、ワクワクするという意味ではすごく重要な部分だとは思っているので、その言葉を変えるといいのではないかなと思いました。

委員長)このヒントは、委員のおっしゃっていただいた正解に導く鍵と言うよりも、むしろ後半で言っていただいた一種のアイデア。よく閃いたときにぴかっと電気がつく絵がありますよね。ピクトグラムとは言いませんが、ああいうのを使ってみると、もしかしたら委員の言っているイメージに近づくのかもしれないですね。ただアンケートは若者だけでないので、40代の方もいらっしゃるのでは。

委員)どちらかと言うと人々にアイデアを生み出させるというイメージがありますね。

委員長)そういう図を使っていたら、言葉よりも閃いたというピカッと光るロゴを使っていたらどうでしょう。

委員)事例も含まれているので、どう表現するか難しいですよ。アイデアでもないし「好事例」ぐらいでしょうか。あとP27赤字ヒントの3つ目、「町づくり」

という言葉ですが、ほかは平仮名表記なので、違和感があります。

委員長) 統一していただいて、読みやすいようにしていただけたらと思います。

委員) そうしましたら固有名詞以外はひらがなで。

委員長) 先ほどおっしゃっていただいたヒントに代わる言葉はいかがでしょう。

委員) 「事例とアイデア」が一番シンプルではないでしょうか。

委員長) そうしましたら、そのように変えていただくということでよろしいでしょうか。他にありませんでしょうか。

委員) 第5章の「10年」という表現ですが、改訂からは10年ですが、ビジョンの実現を目指す活動は20年前からです。どこを起点に置くかによって異なるので、検討が必要かと思います。

委員長) 他の県民局とのこともあるかと思いますが確認していただいて、改訂ビジョンなら10年、そこは誤解がないように表現したいと思います。ありがとうございます。他はよろしいか。そうしましたら、第7章は終わらせていただいて、第8章の「主な取組」のところになります。ここもいろいろと具体的なところを書いてまいりましたし、特にこのあたりは、市町からのご意見も方々伺ったところでもありますので、修正点、ご質問等たくさんあろうかと思いますが、ご意見賜ればと思います。いかがでしょうか。

局長) P33のところは、大前提とっていただいたら結構ですが。加古川に来まして、色々な方とお話しする機会がありまして、皆さんが言われる多様性とか個人のいわゆる意志、希望とかの中で、他の人を想ったりとか、みんなのことを想ったりとか、そういう気持ちがずいぶんと少なく低くなっているのではないかという意見を聞きまして、こういった多様性などを当然理解しながらやっていくという中にはですね、共同体とか、地域を作っていくという、共通の思いがあってほしいなということがあります。趣旨はそういうところでございます。

委員長) 局長がおっしゃっているのは、他者への寛容という問題ですね。この問題は確かに書かれていないところで、こういった方々が幸せに暮らすことができる寛容な社会であるということは確かに重要だなとは思いますがね。

例えば、混じり合い支え合う、あるいは。
委員) 認め合う、ですね。付け加えたらいいですね。

委員長) 上の丸のところですね。「多様な人々が混じり合い支え合い認め合う社会」ですね。少しここを、寛容のことを入れられる。

一応、受容性を高めるという言葉があるのですが。正直に言うと、多様性を認めると言うのは、少しみなさん、不愉快なことを我慢してくださいという社会ですという言い方をする人もいます。こういう言い方をしている人がいるということで私が言っているのではないですが、その代わり、自分がもしかすると相手に不愉快な思いをさせて我慢してもらっているところがあるので、多様性を認める社会というのは、ちょっとずつそれぞれの人が不愉快を我慢しないといけない社会かもしれません。

先ほど委員がおっしゃっておられた通り、認め合うという言葉を入れていただいたらいいかなと思います。
ほか何かご意見ご質問ないでしょうか。

委員) P31の「災害弱者」という言葉は今は使いません。法律上は「災害時要配慮者」や「避難行動要支援者」。兵庫県では「災害時要護者」を使います。「弱者」という表現を嫌がられる方もいらっしゃいますので。

委員長) 他と合わせてください。他いかがでしょう。

委員) P40の「農業の持続的発展」についてです。農業のスマート化やデジタル技術の活用が進むと農業イコール農作業ではなく、生産から加工、販売まで食に関するビジネスチャンスに繋がると思います。

農業者同士、あるいは集落による大規模化、ブランドが進み農業の夢に繋がるのではと思います。また、誰もが農業に参入できる環境づくりを進め、未来の農業者の育成を推進することが、農業の持続的発展に繋がるものだと思います。そのようなことを少し加えていただければどうでしょうか。

委員長) ありがとうございます。確かに、今は、農だけでなく、農から生じるさまざまなものがある。最後の「だれもが」というところは、どうですかね。今は農業委員会という問題がある、いまは「だれもが」ではないということですよね。土地を持っていたり農地を持っていたり、ここでは、農政の問題となってきますが、局長、教えていただけますでしょうか。

局長) 将来のことだと思うのですよね。そこは、書き方で工夫できるのではないかなど、未来の担い手づくりのこと、これは喫緊の課題でもあると思いますので、委員のおっしゃるとおり、参加者が「だれもが」の方が、広げるという趣旨で、捉えてはどうかと思います。

委員長) 基本的には、委員がおっしゃったところは取り入れさせていただきたいと思います。表現は少し考えさせていただいてよろしいですか。おっしゃたように、農からスタートする新しい産業への脱皮・脱却といいますかね。そういうところは、ワクワクというイメージになりますので、そこは少し強調させていただいていいかなと思います。文章は、事務局と考えさせていただくということで、基本的には、委員のおっしゃったところを取り入れていきます。

委員) それから「豊かな水辺を取り戻す取組」のところは、10年・20年で取り戻すのは難しく、息の長い事業になるかと思います。

高度成長期の1970年～80年代にかけて、海岸線の多くは工業用地として埋め立てられ、兵庫県では甲子園球場の13個分の干潟が失われました。それからだんだん魚が捕れなくなっていったということです。

私が子ども達に教えているのは干潟の役割です。そこに棲む甲殻類や貝類の1個体から何千、何万もの卵が海に放出されます。それらは、動物プランクトンになって魚のエサとなり、海を豊かにしてきました。

今では種苗放流が行われているのですが、漁業者からは「100年プロジェクトでもいいから海を取り戻してほしい」と聞きます。長期プロジェクトとして進んでいけばと思います。

委員長) ありがとうございます。ここで書かれていることでは、おっしゃったとおり、干潟再生というイメージですかね。必ずしも、私も把握しているというわけではないのですが、例えば工場が撤退したあと、跡地は工場が入ってくるのですか？高砂市さんどうですか。例えば、そこを市が借り上げて干潟に直すとか、元に戻すとか、そういう発想は全然ないですか？

高砂市) 工場の跡地ですからね。やはり更地になっていますので、まずは新たな活用ということでは、新規の工場さんに来ていただくような形になるのかなと思います。それを元の状態にというのはちょっと難しいかなと思いますね。

委員長) 確かに、昔は高砂でも海水浴場があって播磨清松という高砂のイメージで、昭和30年代の写真なんかは拝見しているのですが、なかなか難しいですか

ね。例えば、ドイツなどは撤退した後、森に返すのですよね、工場跡地をそのままにしておいて。日本だとすぐ森になってしまうのですが、すぐには森にならないので、それこそ委員のおっしゃった 100 年かけて森に返していくイメージですね。

日本の場合は、平原に工場があるのではなく、海岸線にあるので、そこがなくなった後どうするのかなど、確かに、重金属の問題とか、ややこしいことがあるので、利用できるのかいろいろ議論があるのですけれども、自然に返していくという発想は確かにあってもいいような気はするのですけどね。まあ、こういうものを入れるかどうかですね。何かご意見ありましたら、どうぞ。

委員) 土地利用ですか。

委員長) 土地利用か、まあ豊かな水辺を取り戻す取組にはなりますよね。いわゆる水辺の回復ですね。干潟回復ではまたちょっと難しいですが。これまでは、水辺の利用だったのですね。一応、本来は公有地なので、高砂などは、これまでやってこられたところですから、一番よくわかりだとは思いますが、だんだんそうではなくて、土地トラストみたいに、買い取って海に戻しましょうみたいなことがあってもいいかもしれない。

委員) 水辺だけでなく、先ほどの空き家や「減築」の試み、それから公園もプレーパークができるような広い空き地に変えていくみたいな発想はあってもいいかなと思います。とはいえ、今からビジョンに盛り込むとなると、結構あちこちの文言を触らないといけないので難しいかな、とは思いますが。

委員長) 水辺の再生についての審査、検討くらいでいいのではないですかね。空いている土地をトラストで買い取って、海に返すというのは、十分考えられるアイデアだと思います。あってもいいのかもしれない。いわゆる、工業地、商業地だったわけですから、行政も多少補助いただいて、もちろん、安全をどうするかだとか、津波、高潮のときどうするかという議論はありますが十分に考えられることだと思います。

はい。ありがとうございます。ほか何かご意見ございますでしょうか。

タイトルにつきましては、先ほどの農業の持続的発展のところに、水産業も入ってきて、ここに書いてある農業の一部に、先ほど言ったかいぼりのことを少し参考にして、水産業のことを付け加えていただいでよろしいでしょうか。かいぼりをもう少ししっかりやっていただいで。そのためには、ため池の管理をどうするのかなど、これも高齢化が進む中で大問題がこの地域にはあるわけなのです

が。そのほかご意見ご質問ありますでしょうか。そうしましたら、8章は終わらせまして。

第9章で、ここは「ビジョンの実現のために」ということで、いわゆる、PDCAをまわすという発想ではなくて、みんなでこれからビジョンを作っていくって、みんなのためにこれやっていきましょうということになります。

このようなことをいっては申し訳ないのですが、本来、2050年の時に主役になっている人達に理解していただいて、先人達はこういう思いでやってきたよ、君たちはこれでどういうことを付け加えていくのか、考えてねというような長期的な視点でこれを進めて行きましょうという発想で作られているものです。いわゆる、進捗管理とは少し意味が違うというところ、ご理解の上でご意見賜ればと思います。いかがでございましょうか。

委員) 第9章のところが一番大事ではないかと私は思います。行政だけでは補えないところを、市民がどう活用していくかが、ここに書かれているのではないかと思います。文章に書かれていることを、思いつきですが、図式化してぱっと一目でわかるようなものを入れることによって、みんなで地域を良くしていくのだということがわかればいいのかと思います。以上です。

委員長) なるほど。

委員) みんなが助け合って、上に向かっていくような。

委員長) それは、市民のみならずとか「住民、団体、企業、行政など多様な主体に向けて発信します」というところで、その多様な主体が主役ですよということがわかればよいということですね。

委員) 手を取り合って、みんなの力を合わせているような、進んでいくべき未来のイメージが伝わればいいのかと思います。

委員) 「みんなの力を合わせて」というところを聞いて、御神輿が思い浮かびました。

委員長) イラスト、図などが得意な人が県民局におられましたら、ご相談いただくか。

委員) 簡単に良ければ作ります。

委員長) ほか何かご意見ございますでしょうか。

委員) 文章の問題なのですが、後の方にありますが、「みなさんの思い描く未来は、特別なものではありませんが、日々の暮らしの中に存在し、様々な形をしているはずです」のところの、「特別なものではありませんが」のところで、意味がつかみにくいといいますか、「それぞれのこと」ということでしょうかね。「様々な形」がその後にあるので。

委員長) そうでしたら、ここは差し替えましょうか。いわゆる、イメージとしては、先ほどおっしゃられた「様々な形」ということで、個々別々にとってみても本当に特別なものなのでしょうね、ということなのでしょうね。突飛なものではなくて、地に足がついたものですよね、ビジョンを伝えることは現実からスタートして思い描くものがあるので、現実からスタートしましょうね、ということがあったので、ここを強調されたと思うので、ここは文章を考えます。他何かありますか。

どうやって読んでいただくかということが、大変だと思うのですが、前にはグラフがありますが、委員がおっしゃられたように、いわゆる、図とか模式図とか絵とかいかがですか。以前 A3 で作られたもの、あれぐらいですかね。以外は使用しないのでしょうか。

事務局) イラスト的なものをいれるということですね。

委員長) 例えば SDGs のピクトグラムみたいなもので、それがよいというわけではないですが。ビジュアル的なものは工夫されますか。パブコメのときには、文章中心ですか。

事務局) そうですね、パブコメのときには文章中心です。

室長) 冊子のときには。

委員長) そうでしたら、委員の作られるものは貴重なものになるかもしれないですね。しっかり作っていただいて、よろしく願います。他いかがでしょう。

委員) 普及させる具体的な取り組みが入っていませんね。学校現場で議論の場で使っていただくとか、若い人にどうやって知ってもらうかが大事です。

委員長) 学校現場の活用いいですね。県教委にいて、使っていただくというのはよいかもしれませんね。東播磨の小・中学校、高校生の議論の場などがありますので使っていただいたらと。ほか何かご意見ございますでしょうか。

一旦、今日ご意見いただいたことは事務局と私の方で調整させていただいて、時間も限られていますので、みなさまにはご報告はできないのですが、パブリックコメント後、みなさまには集まっていただこうと思っておりますが、そういう形でよろしいでしょうか。パブコメは12月後半ですよ。

事務局) 12月後半の予定です。

事務局) 検討委員会が2月にもう1回あります。

委員) みなさんにビジョンを知っていただくということで、広報を含め、どういうふうに展開していくか、次回の課題にして、ちょっと考えていかないと。知っていただかないと、知らない人が大半なので、パブコメもありますが、それ以外の、若い人にも高校生にも知っていただくよう展開を考えて、より多くの人に知っていただく、行政の方も協力し合って知っていただくという努力が必要になってくるのではないかと思います。

委員長) 市町の担当者も自分たちの総合戦略をどのように市民、町民に知っていただくか、頭を悩まされているところだと思いますので、次回課題にすることによってよろしいでしょうか。それでは、次回課題にすることによって。

ここまでのところは、事務局の方で、整理して修正していただきたいと思えます。長時間にわたる議論大変お疲れ様でした。事務局に返します。

事務局) ありがとうございます。それでは、閉会にあたりまして副局長よりご挨拶させていただきます。

副局長) 本日は長時間ありがとうございました。3月の部会が始まった頃は、どんなものができるのか見当もつかなかったのですが、ここまでの形にさせていただきました非常に感謝しております。ひとえに委員長はじめ委員のみなさま、またアンケート等にご協力いただきました地域の住民のみなさまのお陰だと思っております。これから今日の議論を踏まえまして加筆修正しました上で、パブコメに入らせていただきます。また先ほどもありましたけど、来年以降もお集まりいただくことになっております。もう少しですけれどもご協力のほど、よろしく

お願いいたします。本日はありがとうございました。

事務局) 本日の議事録は後日、内容をご確認いただいたうえで、委員のお名前を伏せ公表させていただきます。次回の検討委員会では、パブリックコメント後の最終協議を予定しております。開催日程につきましては、別途調整の上、ご連絡をいたします。本日は、長時間にわたりありがとうございました。